



京都大学経済学部同窓会

会報第16号



Kyoto University

平成25年度
京都大学経済学部同窓会 総会

【日時】平成25年10月19日（土）14時30分～18時00分

【会場】京都大学百周年時計台記念館 2F 国際交流ホールI・II

◆ 講演会 14時30分～（受付：14時00分～）

◆ 総会 15時30分～

◆ 懇親会 16時30分～

【講演】「イノベーションの理由」

※ 2012年度・第55回「日経・経済図書文化賞」受賞図書

〔講師〕京都大学大学院経済学研究科 武石 彰 教授

日本企業の事例分析に基づいて、イノベーションはどのようにして実現されるのかについてご講演いただきます。

また、在学中の学生さんによる論文発表もございます。



【懇親会】懇親会費 3,000円（着席ビュッフェ）

学生会員 2,000円
 ご同伴者

（当日、総会 / 懇親会受付にてお納めください）

今年は京大オーケストラによる「弦楽四重奏」の生演奏とともに、お食事をお楽しみください♪



※写真はイメージ

京都ロイヤルホテルの上質なお料理をご用意してお待ちしております！

ご都合により、講演会・総会・懇親会のいずれかのみのご出席でも歓迎いたします。

ご出欠を同封のはがき又はメールにて **9月27日(金)まで**にご返信願います。

■ 市バス等案内

主要駅	乗車バス停	市バス系統	下車バス停
京都駅 (JR / 近鉄)	京都駅前	206系統	京大正門前
		17系統	百万遍
タクシー約30分			
阪急河原町駅	四条河原町	201系統	京大正門前
		31系統	京大正門前
		17系統	百万遍
		3系統	百万遍
地下鉄烏丸線 烏丸今出川駅	烏丸今出川	203系統	百万遍
		201系統	京大正門前
地下鉄東西線 東山駅	東山三条	206系統	京大正門前
		201系統	京大正門前
京阪出町柳駅	東へ徒歩	約15分	

アクセスについての詳細は、ホームページに掲載しております。



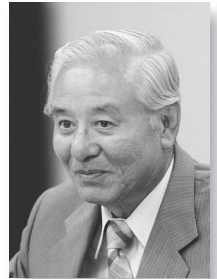
京都大学経済学部同窓会 [検索](#) トップページの [アクセス](#) 情報をクリックしてください。

ご挨拶

京都大学経済学部同窓会会長

日本電信電話株式会社

相談役 和田紀夫



私は、昨年10月13日の同窓会総会に於きまして、名誉会長に退かれた前西澤会長の後任に推選され、選任されました和田紀夫でございます。本会報をお借りし、ご挨拶申し上げます。先ず何よりも最初に申し上げたいことは、同窓会員皆様方のご支援とご協力をお願いすることであり、その後述させていただきますが、私は同窓会活動の経験が浅く、皆様方のお力添えなくしては、お役目は果たし得ません。特に同窓会側にあつては、先の名譽会長の辻井様、現名誉会長の西澤様、常務理事の宇野様、副会長兼地域支部長の皆様、大学本部側にあつては、理事長の植田学部長、常務理事の江上教授、理事の教授の皆様方、何卒よろしくお願い申し上げます。

さて、ここで、お見知り置き頂くため、簡単に自己紹介をさせていただきます。私は、昭和39年卒業で、いわゆる60年安保世代最後の学生です。デモと激論、生活費稼ぎのアルバイト、下手ではあったが打ち込んだ弓道、で明け暮れる毎日を送っていました。裏を返せば、学問をしたという実感が殆どない学生でした。

卒業して電電公社（現NTT）に入社しました。電電公社は、通信ネットワークを全国に展開し、そこから生産されるサービスを利用していただくことを業としていました。従つて、活動拠点は全国に配置されています。私は、入社以後、常務取締役として東京に永住するまで、東京と地方の間を2、3年毎に13回に渡り転勤しました。そんな事情から、京都大学も同窓会

も、或るきっかけを得るまでは遠い存在でした。そのきっかけとは、出口ゼミの同窓会です。名を如き俱樂部といいますが、お誘いを受けた時は戸惑いましたが、思い切つて参加しました。不義理を重ねていたにもかかわらず、先生をはじめメンバーの皆様は暖かく迎え入れていただき、参加を重ねる内に違つた目で自分を見る自分に気がきました。当時、私は、事業の第一線で切つた張つたのネゴシエーターとして心身をすり減らしていたのですが、倶楽部の皆さんが先生を中心に、余裕のある知的会話を楽しんでいる姿は、自分を今一度見直す「目から鱗」の出来事でした。同窓会の存在意義が、少しは分かつたような気になりました。

そんなこともあり、社長退任後、東京支部長をお受けし、会長を退任した昨年、同窓会長をお受けすることといたしました。

さて、同窓会規約の第3条に「本会は会員相互の親睦および母校との連絡をはかることを目的とする」とあります。私はこれを私流に次のように理解しています。京都大学で共に学び、京都という街と文化を共に享受したことを絆とし、また卒業してなお、知的生産活動の場である大学との相互交流により、自らの知的好奇心を満たすとともに、大学の発展を支援する、そういう「親睦と創造を紡ぎ出す絆の場」として同窓会はあると考えています。その趣旨に沿つて、大学本部のご支援をいただきながら、各支部は、創意工夫を凝らした活動を展開されてい

ることは、先の総会でご披露いただいたとおりであり、今後更なる充実・発展を期待いたしております。

なお、ここで、東京支部長として、今年から新しく始めました企画について、参考までにご報告させていただきます。当支部には、会員が参加する会として、総会に加え年3回の経済懇話会があります。いずれの会も、学部長をはじめ教授の皆様方に出席をいただき講演をいただくとともに、懇親を深めさせていただいております。ですが残念なことは、出席会員の多くが第一線を退かれた方々であり、現役の方の参加は極めて少ないということです。

そこで、新たに別の場を作ることにしました。現役の皆さんが関心を持てるよう、第一線で活躍している財界人等に講師をお願いすること、参加がし易いようウィークデーの夜遅い時間から始めること、名前も「経営研究会」とすることを決め、今年の2月から始めました。成果については、次回の総会でご報告します。

さて、話は変わりますが、大学は今年創立94年目を迎え、来る百周年を契機に新しい展開・脱皮を図るべく戦略を練り、企画に落とし込み、具体的に歩みを進めていると伺っています。大学が独立行政法人に変わつて9年になりますます切詰められた資金事情の中、各大学は、さまざまな改革・工夫をしながら、独自色を出すべく努力して来られました。

松本総長は、山中教授のノーベル賞受賞にあたり、「京都大学をこれからも次々にノーベル賞受賞者が生まれるような大学に行きたい」と述べておられます。私達同窓生にとつても、胸躍る思いです。

今年の干支は、癸巳（みずのと・み）です。関西師友協会が、安岡正篤先生の干支学を参照し、癸巳の年の意味するところを次のように示しています。それによると、

「癸巳の年は、基準法則に則り、筋道を立て、抵抗があつても進取創造的に物事を推進する年」とあります。

60年前の同じ癸巳の年に何があつたか。60年前の昭和28年という年は、前年に占領軍による統治が終わり、新生日本として、実質的に国家が新しい歩みを始めた年です。また、今日の情報化社会を生み出すはしりとなつたテレビ放送が始まつた年です。一言で言うならば、戦後を清算し、明るい発展へ向け、歩みを進めた年でした。

今、デジタル革命とグローバル化の進化と深化のスピードは、想像を超えるものがあり、世界中のあらゆる分野で、地殻変動が起きています。ともすれば、自らの立ち位置を、国も企業も個人も総じて失う危険性を孕んでいます。しかし同時にそのことは、その底辺を流れる基準法則をしっかりと捕え、進取創造的に物事に当たれば、新たな展開が大いに期待できることも意味しているように思います。

干支学が教えるように、新たな明るい一歩が始まる年にしたいものです。そのためにも、大学も同窓生も、経済学が目指すものを「経済」の原点に帰つて見つめ直すことから始めたいものです。旺文社刊の「成語林」によれば、「経済」は、「経世（国）済民」の省略形であり「世や国を経（治）め、民を済（救）う」ことを意味しています。従つて「経済学」は、民の生活を安定させ生活を豊かにするための学問が本来の意であります。部分解だけを追つても答えは得られないと思います。基準法則を思想哲学にまで高め、全体解を追い求めていただきたいと思ひます。

同窓会が、大学と連携し、その設置目的を果たす中から世の中のお役に立つことを祈念して、私の挨拶といたします。

近況報告

定年後の教育と研究

京都大学名誉教授 今久保幸生

(平成24年定年退職)



平成24年3月に京大を定年退職し、同年4月から京都橘大学に着任して1年4ヶ月余。橘大は京大ほど忙しくはあるまいから、70歳の定年までかなり余裕を持って過ごせそうだ、との期待はみごとに裏切られました。中小私大に課せられた諸試験への対応に然るべく寄与することが早々に求められ、気楽に学生とつきあうだけでは済まされない状況になっています。この4月からは文化政策学研究科長に就任したためさらに忙しくかつ——同研究科を取り巻く状況が厳しいので——悩ましくなっていました。

教育

橘大では、教育にひとつの試験があります。京大では、概ね半期の担当講義が1つか2つであり、また年間開講科目の全部を聴講する学生はそう多くなかったため、概ね科目に即した講義

をすれば足りました。橘大では、担当科目が多いので、昨年度前期に講義室で見かけた学生多数が後期にも聴講していたり、今年度前期講義も聴講していたりしています。その上、科目の中には経営学入門と経営戦略論のように中身がかなり重なるものもあります。ですから、これらの科目の講義では、

多数の顔なじみの学生を前に話題が重ならぬよう常に注意する必要があります。これは京大ではほぼ未経験の課題ですし、加齢に伴う(前に講義で取り上げたかどうかの記憶が曖昧になるといふ)記憶力低下との戦いが加わりますから、この齢になって二重の意味の新たな試練に直面していることになりました。

なお、京大着任前の佐賀大学では1980年から10年間経営労務論・経営社会学・労使関係論を、1990年の京大着任後は前半の10年間工業経済論・工業政策論を、後半の12年間経済

政策論を、それぞれ担当してきました。いずれも、己の主な研究課題であるドイツ経済史とはかけ離れた科目でしたから、担当科目が変わるたびにそれなりの苦労を経験しました。橘大ではまたこの苦労を背負い込むことになりました。上記の経営戦略論という新分野を担当することになったためです。己の視野が広がる利点はあるにはありますが。

加うるに、橘大もご多分に漏れず取り組んでいるグローバル教育強化の課題への寄与も求められています。具体的には、京大では毎年実施してきた海外ゼミ旅行の経験をもとに、橘大が今年度から立ち上げた夏期・春期海外短期体験プログラムに深く関わることになり、海外への学生の引率などを場合によっては毎年やる可能性ががあります。この夏も早速27名の学生を同僚教授とともに台湾に連れてゆくことになりました。もっとも、台湾では大学院ゼミOBの蘇頌揚(台北)、陳正達(高雄)のご両人が企画段階から(現地旅程に至るまで)世話役として助けて下さっているのが心強いところです。お二方の支援を得ながら、この体験プログラムで橘大の学生が京大ゼミ生と同様、大きく育ってくればと願うばかりです。台北では、昨秋、京大教育学研究科から台湾大学日本語文学系に移籍された辻本雅史さんと久闊を叙する楽しみもあります。

研究

研究では、目下、第1次大戦後ベルサイユ条約下のザールラントをめぐる独仏経済関係に関するドイツ外務省政策史料館やドイツ連邦文書館の史料を分析中です。この分析は、主にライント、ルール地域を扱った京大での最終講義に続く研究です。これらの研究の意図は、19世紀前半から現代に至るドイツ通商政策史を一貫して把握することを妨げる、ベルサイユ体制下のドイツ通商政策に関する研究史の空白を埋めたい、ということにあります。史料はあるのに、極度な変動下の当時の展開を把握するのが困難なためか、国際政治や賠償問題、国際金融問題等を除けば、断片的にはともかく本格的に立ち入る研究者が殆どいなかったのが、このベルサイユ条約下のドイツ通商政策およびとくに独仏通商関係です。私にとつては、当面のドイツ西部国境地域に加えて、同東部国境地域、および鉄鋼をはじめとする工業の貿易、農産物貿易、為替・金融等を含む全体像を研究するのに今後10年以上かかる見通しの課題です。

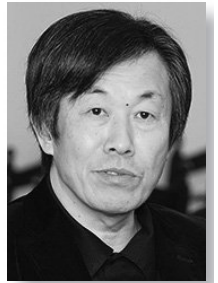
ともあれ、ドイツ外務省等の史料が示す往時の政策担当者や財界関係者等の言動を、己の分析視角から再構成するのは、手応えのある歴史分析であり歴史叙述でもあると思います、楽しみながら研究を進めているところです。

慶應・三田東門歩いて

300歩のマンションにて

京都大学名誉教授 大西 広

(平成24年退職)



去年の4月から慶應義塾の経済学部

で「マルクス経済学」を教えるようになっていきます。この科目にひかれてきたのですが、こちらでは「関西の数理派マル経がやってきた」との受け止めで、なかなか良い刺激となっているようです。私としても、同僚の近代経済学の先生のご研究にも興味を掻き立てられるのが多々あります。定年まで10年限定の単身赴任ですが、まずは順調に滑り出したというところでしようか。

それで、こうして「トーキョー」の「ケイオー」という一見正反対の場に異動してよく聞かれるのは、やはり「京大との違い」です。私としては、教養課程と専門課程がかなりくつきり分かれていること、授業は原則通年となっていること、ゼミナールを重視していること、「マルクス経済学」がその名で生き残っていることなど案外と過去の京大との接点をカリキュラムの面で感じますが、それ以上に思うことは学生の特徴です。私の学生ゼミナールは「マルクス経済学」を前面に掲げて募集し、2年に亘って10名ほどの応募がありました。その彼らを見る限り、「慶應生」は次のような特徴があ

りそうです。

① 恐ろしく素直。3年生の末ごろから就職活動を皆がしていますが、何と企業面接アンケートで「マルクス経済学をやってみました」とアピールしている!!君がいました。この君も何とか就職できたようですが、あぶない、あぶない。皆さん、どう思いますか……。

② それからもうひとつ、やはり平均所得は高そうです。東京では「慶應のブル学生」などという言い方が過去にあったようですが、京大で付き合い合っていた学生・院生の貧乏さ加減とはやはり違います。適当に海外旅行もするし、「ゼミ合宿」となるといきなり遠方の希望を出してきます。ただ、そんな彼らにも「マルクス経済学」は十分に関心の対象となるらしく、たとえば日本の長時間労働問題、ジェンダーの問題、あるいは就職難の問題などが関心なようです。実は、ゼミ生のひとは父親を過労死で亡くしています。中産階級には中産階級なりの社会矛盾があるのだと感じた次第です。

私は、今、単身赴任なのでなるべく職住接近ということで、何と大学の門

から300歩(数えました!)のところに住んでいます。11階建てのマンションの11階で、入り口ドアの向かいの窓からは毎日東京タワーを見ています。が、それ以上にこの地が気になるのは、南側の高層ビルの電気が夜中になっても消えないことです。夜の11

時頃なら全体の約3-4割、12時で2-3割の窓の電気がついており、たまに夜中の3時頃に起きて見てみても1割くらいは点いています。「トーキョー」という街に存在する別の種類の社会矛盾をこうして毎日マンションの窓から眺めています。



卒

業

生

だ

よ

り

学生の頃の思い出と27年後の母校

川端輝治

(昭和61年卒)



私は、昭和57年に理学部に入学しまして、2回生から移籍してきた転部組です。

うで、1期生の3回生6名のうち転部組が4名もいたのはちょっとびっくりでした。(笑)

経済学部の雰囲気は今ひとつ馴染めないまま、3回生に進級した時に、当時新任の植田先生のゼミが開講されたのでした。

「環境経済学」という、(当時は)初耳の科目名と、先生が工学部出身ということに惹かれ(というか、「理系崩れ向きのゼミに違いない」と勝手に確信して)、門を叩いたのです。

同じ考えの者は私だけでなかったよ

ゼミでは、勉強熱心な学生ではなかったもので(植田先生、すみません)、文献を読んだことよりも、学外に出て琵琶湖の環境保護運動やナショナル・トラスト運動の活動家の方に話を聞きに行ったことが、とても刺激的でいい思い出になっています。

就職活動では、民間の内定もいたっていたのですが、悩んだ末に故郷に帰ることを決め、宮崎県に入庁いたし

ました。

役人生活は、かれこれ27年余り、企画や財政、産業部門を中心に勤務してまいりました。現在は、県の東京事務所や国会議員への陳情要望（今でも補助金獲得やインフラ整備が目的ですね）や各庁との連絡調整を担当しています。財政的に自立できない自治体の現状には忸怩たる思いもあるのですが、少しでも愛する地元の発展に寄与できれば、と考えながら永田町や霞が関界隈を日々回っているところです。

話は変わりました、今春愚息が京大を受験し、保護者として久々に母校を訪れました。（結果は不合格でした。）受験生そつちのので構内・構外を見て回り、法経教室や西部講堂など昔と変わらぬ風景を懐かしむとともに、立て看板がなくなったことや教養部や学部の立派な教室棟に変化も感じたところです。息子にも伝統ある京大の素晴らしさを感じて欲しいので、来春こそは合格してほしいと願っています。



人生の転機

弘世晴久

（平成2年卒）



先日、妻と息子に誕生日を祝ってもらった。ケーキには大きなローソクが4本と小さなローソクが6本。我が国の男子の平均寿命はおよそ80才だから、もう人生の折り返し地点を過ぎて6年も経つことになる。自分が大学を卒業した頃思い描いていた「理想の40代」に、今の自分はどれだけ近づけているだろうか。妻がいれてくれた紅茶をすすりながら、ふとそんなことを思った。

大学時代はテニスサークルと飲み会に明け暮れた不真面目な学生であった。今だったら数回は留年していたに違いないが、その当時はこんな私でも4年でなんとか卒業することができた。

大阪ガスに入社後の10年間は、右も左もわからないままがむしゃらに働いた。我が強く、納得するまでは自分の意見を主張し続ける頑固なところがあった。自分が折れれば30分で終わる会議が、私のせいで2時間以上かかったこともあった。今から思えば、一生懸命が過ぎて周りが見えていなかったように思う。

34才で関係会社に出向になった。バ

ブルがはじけ、受注・利益率ともに右肩下がりの同社の経営再建がおもな任務だった。給与水準の引き下げ、不採算部門の分社化、早期退職制度の導入など、考え得る限りのリストラ策を立案した。しかし当然ながら、親会社から落下傘で来た若造の考えるリストラ策に対する社員からの抵抗は苛烈なものであった。これまでの猪突猛進型の仕事のやり方は全く通用せず、リストラ策は宙に浮く形となった。ここで幸運だったのは、素晴らしい上司に恵まれたことであった。自分の考えを通すには、まずは相手の意見を真摯に聞くこと、ひとりの力でなく上司・同僚・部下の力を最大限活かすこと、そして相手の懐に飛び込み信頼を得ることを、身をもって教えられた。ここでの経験が自分の会社人生で1つ目の大きな「転機」になったと感じている。

関係会社で一通りのリストラ策を断行し、36才で東京に転勤になった。ガス業界全体の意見をエネルギー政策に反映させることがおもな任務であった。3年間の任期中は、毎日早朝から日付

が変わる深夜まで働き詰めで、心身ともに過酷であったが、それまで関西のガス事業しか知らなかった自分にとって、わが国全体のエネルギー政策上の課題に世界も視野に入れて取り組む仕事は、刺激に満ち溢れていた。視野が大きく広がったという意味で、ここが2つ目の「転機」ではなかったかと思う。

関西に戻って程なく40代になり、関係会社の再編等に携わったのち、現在は経理部門で中間管理職をしている。上長として部下を育てる喜び、部下の士気を高めて成果を達成することの難しさ等、これまでスタッフの立場では学べなかったことを学び、大いにやりがいを感じている。おそらくここが3つ目の「転機」になるのではないかと思う。

卒業のころに思い描いた「理想の40代」と今の自分ではかなり違っているかもしれない。挫折もあった。あの時ああしていれば、といった思いもない訳ではない。しかし、これまでの人生満更でもなかったし、これからも正しいと信じる道を、胸を張って進んで行ければと思う。

残りの会社人生、あと何回の「転機」が訪れるのか、今から楽しみである。

アベノミクスと私

白水俊介

(平成14年卒)



私は現在証券会社で勤務しております。証券会社と申しましても、皆様にお馴染みのセールスマンではなく、キャピタル・マーケット業務というものに従事しております。

企業が証券市場で資金調達するためには、新たに有価証券を発行する必要があります。ここで登場するのが私共、証券会社（投資銀行）のキャピタル・マーケットの人間です。上場企業・公共セクターといったお客様に対し、有価証券の発行を通じた資金調達のご提案と、発行に関するアドバイスをさせて頂くことが、主な業務です。

京大では、古川顕先生のゼミで金融論を勉強しておりました。お世辞にも学業に熱心な学生とは言えませんが、唯一と云っていいほど注力したのが、他大とのディベートでした。当時のテーマは、「量的緩和政策の効果」「日本銀行によるゼロ金利政策解除の是非」といったところでしたが、準備期間中、取り憑かれたかの様に専門書を読み漁り、ゼミの仲間と議論に没頭しました。

時は流れ、本年4月4日。日本銀行の金融政策決定会合において「量的・質的金融緩和」の導入が決定されました。いわゆる安倍政権のデフレ脱却「第一の矢」であります。発表当日、

デスクの情報ベンダーで速報に接した途端、10数年の時を超え、あの頃の議論が鮮明に蘇ってきました。「マネタリーベース2倍で2%の物価上昇？波及経路は？」「日銀当座預金が増えれば貸出が増える？本当に？」その後のマーケット動向については、この場で私がコメントすべきものではありませんが、ぶれない相場観を持ち続けることができたのは、当時の古川先生およびゼミの皆様のお陰だと感じしております。

最後となりますが、本会報が皆様のお手元に届く頃には参院選も消化し、「第三の矢（成長戦略）」が本格稼働していますことを、市場参加者の一員として切に願っております。決して「刀折れ矢尽きる」ようなことがありませんように。

大学時代を振り返って

久田 望

(平成20年卒)



私は平成23年に大学を離れ、社会人になって3年目を迎えました。入学は平成15年で、他の皆様よりもゆつくりと、8年間も大学生生活を堪能させて頂きました。特に吉田和男先生には2回生の時にゼミに参加させて頂いて以来、7年間もお世話になりました。

吉田ゼミは京都大学らしく自由さにあふれていて、また、先生の温和なお人柄もあって、とても居心地のよいゼミでした。京都大学経済学部にはたくさんさんのゼミがあるかと思いますが、来年のゼミでどの分野の経済学を勉強するか、というレベルから、学生と先生との相談で決めていくゼミは希少ではないかと思えます。私が在籍中には複雑系経済学・数理経済学・制度経済学などの本・論文を読み、知見を広げさせて頂きました。また、毎年度初回のゼミでは新しく入ってきた2回生との顔合わせの後、全員で缶ビールやお菓

子を持って哲学の道まで歩き、日が暮れるまでお花見をしていたのもよい思い出です。

吉田先生にまつわるエピソードで、

私が特に印象深く感じているものを紹介させて頂きます。吉田先生は大蔵省勤務時代、通勤の行き帰りの電車の中では勉強をかかさなかつたそうです。ハイエクなどを読んでいたら何っていいです。「人生死ぬまで勉強」とはよく聞きますが、資格のための勉強などをしてる方は多くても、自分がやりたいと思う勉強を続けられる人は多くないのではないのでしょうか。

私は現在アクセンチュアという会社で日本企業をお客様として、ITを使用した経営の「見える化」をサポートしています。それなりに激務で、目の前の課題・障害に追われています。吉田先生のように長期的な目標を立て、その目標の実現のために日々行動することの難しさを痛感しつつ、何か始めなければ、と焦って模索しているというのが現在の近況です。

最後に、京都大学の自由の学風の存続と、経済学部関係者皆様の益々のご活躍を祈念し、筆を置かせて頂きます。ご精読ありがとうございます。

わたしの研究

京都大学経済学研究科准教授

佐々木啓明



わたしの研究は、マクロ経済モデル

を構築し、経済成長および景気循環といった経済現象を理論的に分析することです。特定の分野にこだわらず、例えば、国際貿易は経済成長にどのような影響を与えるのかといったことから、正規雇用と非正規雇用の賃金格差は景気循環にどのような影響を与えるのかといったことまで、幅広く研究しています。その中でも、ここでは、先進国で広くみられる「脱工業化」あるいは「経済のサービス化」と呼ばれる現象が、一国の経済成長にどのような影響を与えるのかについて、解説したいと思います。

まず、脱工業化という言葉についてです。これは経済全体に占める工業・製造業の割合が低下していく現象を表す言葉です。この割合を測る指標はいくつかあります。以下では、経済全体の雇用にあたる工業・製造業部門の雇用の割合、つまり工業・製造業部門の雇用シェアで測ることにします。すると、脱工業化とは、工業・製造業部門の雇用シェアが低下していく現象と定

義されます。

つぎに、サービス化という言葉についてです。経済学では伝統的に、経済構造を農業、工業、サービスという大きく3つの部門に分けて分析することが多いです。ところで、先進国では農業部門の雇用シェアはとも小さいので、とりあえず農業部門は除外して考えることにします。すると、脱工業化が生じ、工業・製造業部門の雇用シェアが低下すると、その反対に、サービス部門の雇用シェアが増大します。このサービス部門の雇用シェアの増大をサービス化と定義します。つまり、脱工業化とサービス化は表裏一体の関係にあります。以下では、サービス化という用語で統一することにします。

それでは、なぜサービス化は生じるのでしょうか。この理由について、ウィリアム・ボーモルという有名な経済学者が1967年に発表した論文で答えています。それは、第1に、サービス部門の生産性は工業・製造業部門の生産性より上昇するスピードが遅いから、第2に、人々の所得が上昇する

につれて、サービスの消費に向けられる所得の割合が工業・製造業品の消費に向けられる所得の割合より早く上昇するから、というものです。これらをボーモルの2つの仮説と呼ぶことにします。

2つの仮説をもう少し詳しく検討してみます。第2の仮説は、言い換えれば、人々の需要が工業・製造業品からサービスへシフトしていく、となります。すると、金額で測って、相対的に多くのサービスが需要されることとなります。ところが、第1の仮説により、サービスの生産性はあまり上昇しないので、サービスを生産するのに相対的に多くの労働が必要となります。これら2つがあいまって、サービス部門の雇用シェアが上昇するのです。

ボーモルは、同じ論文の中で、もう1つ重要な指摘をしています。それは、サービス化が進むと、1人当たり実質GDP成長率は低下していくというものです。経済が工業・製造業部門とサービス部門という2部門から構成されているとき、1人当たり実質GDP成長率は、工業・製造業の生産性上昇率とサービスの生産性上昇率の加重平均となり、加重平均するときのウェイト(重み)は、各部門の雇用シェアとなります。先ほど説明したように、サービス化が進むと、生産性があまり上昇しないサービスのウェイト、すな

わちサービスの雇用シェアが大きくなっていきます。その一方で、生産性が早く上昇する製造業のウェイトが小さくなっていきます。すると、1人当たり実質GDP成長率は、サービス化の進行につれて低下していき、最終的には、サービス部門の生産性上昇率に等しくなります。

ボーモルの2つの仮説は正しいのでしょうか。数多くの実証研究があり、結果は様々ですが、大雑把に言えば、ボーモルの2つの仮説は支持されています。ボーモルの仮説が正しいとすると、必然的にサービス化が進行し、これまた必然的に成長率が低下していきます。つまり、先進国において、サービス化とそれに伴う成長率の低下は必然であるといえます。

成長率の低下を防ぐにはどうしたらよいでしょうか。人々の好みは工業・製造業品からサービスへシフトすることが避けられないとするならば、方法はただ1つ、サービス部門の生産性を上昇させるしかありません。



出版案内

『私たちはなぜ税金を納めるのか』

—租税の経済思想史—
(新潮社、2013年5月刊)

京都大学経済学研究所教授

諸富 徹



一般に「税金」という言葉には、消極的で強制的なニュアンスが伴いがちです。とりわけ現代の日本人にとっては、「納める」とか「支払う」といった感覚よりも、「取られる」というイメージが強いかもしれません。しかし、税の本質を考えていくと、いろんなことが見えてきます。たとえば戦争や革命といった歴史上の大変動と、税の問題は深く係わっています。18世紀のアメリカ独立戦争のきっかけとなったボストン茶会事件は「茶税」導入に対する反発から始まったものですし、フランス革命にしても、財政危機に陥ったルイ王朝が課税に対する同意を取り付けようとしたところ、第三身分の反乱が起きたことがその契機となりました。本書では、世界の税制400年史を辿ることで、現代社会のあり方を見つめ直し、資本主義経済の未来を展望しようと試みています。税という視点に立ったときにこそ、国家や経済のあり方が、より鮮明に見えてきます。

私たちの感覚では、「税金とは渋々、仕方なしに納めるもの」というのが、正直なところかもしれません。ところが、17世紀のイギリスでは「市民自らが税を積極的に負担し、それを財源として自分たちの社会を支えていくのだ」という自発的な納税倫理が芽生え、いわば「権利」としての税金という考え方が形づくられました。また、ニューデイル期のアメリカでは、独占・寡占をコントロールするための「政策手段」として税制を位置づけるという考え方が台頭し、その後の租税のあり方に大きな影響を与えました。

現代の税制を考えるうえで注目すべきは、経済のグローバル化と投機的な金融経済の進展にもはや国家が追いつけなくなり始めていることです。租税回避地(タックスヘイブン)を利用した多国籍企業の節税対策や、金融工学や高性能コンピュータを駆使した国際的な投機取引に対しては、一国単位での対応では太刀打ちできません。本書は、将来的には税金は、国民国家を超えて「グローバルタックス」の時代へと移っていくとみています。その本格的な試みの1つがEU加盟国のうちドイツ、フランスなど11カ国が共同して来年にも導入する金融取引税です。

つまり、世界の税制の最先端は、すでに国境を超え始めているのです。そこから翻ってみると、先ごろ発表された自民党・安倍政権の2013年度税制改正は旧態依然というか、目先の景気浮揚のための減税措置の羅列となり、往年の利害調整的税制改正へと後戻りしたような印象を受けます。経済のグローバル化と少子高齢化の傾向が、今後ますます加速してゆくいま、それに対応し得る新たなブランドデザインを、日本の税制において構想することを急がねばなりません。本書をきっかけとして、読者||納税者のひとりひとりが、税金について積極的な関心を抱いていただければと願っています。

退任教員の紹介

平成25年3月31日退職 大学院経済学研究所教授 田中秀夫

1978年3月 京都大学大学院経済学研究所博士課程

1993年5月 京都大学博士(経済学)

1993年12月 京都大学大学院経済学研究所教授

2010年4月 京都大学大学院経済学研究所長・学部長(2012年3月まで)

主要著書・

「アメリカ啓蒙の群像」スコットランド啓蒙の影の下で 1723-1801

名古屋大学出版会、2012年

新任教員の紹介



経済学研究所・経済学部准教授

高野久紀

就任年月日

平成25年4月1日

担当講義科目

学部・開発経済論、経済英語

大学院・開発経済学I、II

出生地

埼玉県

生年月日

1977年1月11日

感想・抱負

開発経済学の研究をしています。もともと貧困問題に関心があり、NGOや外交官にも興味がありましたが、NGOだとプロジェクト

ト対象者にしか関われないし、外交官だと人権問題を云々とか相手に譲歩を求めることが多いのに対し、経済学の研究によって「こうすればあなたの国は発展し、貧困問題も解決できる」と建設的な提言ができれば(実際は一発で貧困問題を解決できるほど強力な政策などないのですが)、途上国政府も受け入れやすいし、それによって多くの国の状況が改善できる可能性があるのです。経済学の研究者を志すようになりました。普段は、政策やプロジェクトのインパクトを計測したりしていますが、自分自身が社会にインパクトを与えられる研究を生み出せるよう、精進していきたいと思っています。



経済学研究科・経済学部講師

石原章史

就任年月日

平成24年8月1日

担当講義科目

学部：数学基礎、経済数学
大学院：英語ミクロ経済学

出生地

神奈川県相模原市

生年月日

1981年1月19日

感想・抱負

2012年8月から現職に従事しています。一橋大学で学部生であったころに個人や集団

の意思決定を数理的な枠組みで分析するミクロ経済学の考え方に興味を持ったことをきっかけに、現在はミクロ経済学やゲーム理論の考え方をを用いた経済問題を分析しています。とくに人々の組織、交渉、政治過程の中でインセンティブ（行動の動機）を不完備な契約やルール、あるいは暗黙の約束といったもので、どのように設計していくべきかという問題を分析し、制度設計への示唆が得られるような研究をしています。博士号を取得してからまだ日が浅く、研究者および教育者として不甲斐なさを感じる面も多々ありますが、研究科のために精進していく所存です。



経済学研究科・経済学部講師

井上恵美子

就任年月日

平成25年4月1日

担当講義科目

学部：Environmental Economics I（基礎環境経済論）/ Environmental Management I（基礎環境マネジメント論）

大学院：Readings on Environmental Economics / Environmental Management / Field Research in Japan

Research in Japan
全学共通：Japanese E-2A / Japanese E-2B

出生地

東京都

感想・抱負

平成25年4月1日付で、経済学研究科専任講師に着任致しました井上恵美子と申します。環境経済学、環境政策の分野の研究および教育に従事しております。また国際化教員として留学生の支援を行っております。これまでに経済と環境の両立を図り、持続可能な発展を実現するにはどうしたらよいかという問いをメインテーマに研究してまいりました。最近では企業の自主的な環境対応と経済パフォーマンスやイノベーションとの関係に関心を持っています。企業での勤務経験や留学など、様々な経験を活かして、微力ながらも教育そして学問的に貢献ができるよう頑張っております。どうぞ引き続き指導・鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。



経済学研究科・経済学部講師

片山宗親

就任年月日

平成25年6月1日

担当講義科目

学部：経済英語
大学院：応用マクロ経済学

出生地

東京都

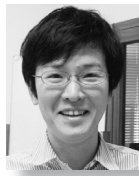
生年月日

1977年2月21日

感想・抱負

大学を卒業してから、人生の3分の1以上をアメリカ各地で過ごしてきました。これまでも、

機会があれば休暇の度に日本に戻ってきていたが、14年ぶりの日本、それも京都での腰を落ち着けた生活は、「日本に帰ってきて良かった」と思わせる様な刺激と発見の連続です。マクロ理論モデルをもとにした構造的な実証分析を武器に、景気変動や金融政策に関する問題を研究しています。カリフォルニア大学サンディエゴ校でPh.D.を取得後、ルイジアナ州立大学で5年間、助教として学部生とPh.D.の学生を指導していました。これからは、京都大学という恵まれた研究環境と優秀な学生を相手に、新たなチャレンジが始まることにワクワクしています。



経済学研究科・経済学部講師

徳丸夏歌

就任年月日

平成24年10月1日

担当講義科目

Academic Writing & Discussion / Comparative Business Ethics / Field Research in Japan / Overseas Field Research / Internship

出生地

沖縄県那覇市

生年月日

1978年8月21日

感想・抱負

2009年に京都大学大学院経済学研究科博士後期課程修了後、日本学術振興会特別研究員を経て、2012年10月より着任いたしました。学

部/大学院と長年お世話になった京大経済で教えさせていただくことは大変感慨深く、身の引き締まる思いです。主に東アジア持続的発展研究コースの英語科目と国際交流事業を担当させていただいています。大学院生時代にウィーン大学に留学した際には、異なる文化や言語、習慣を持つ者同士が交流する事の重要性を実感しました。微力ではありますが、国際交流の架け橋となることができれば幸いです。研究では科学哲学の手法を用いたオーストリア学派経済学の分析に取り組んできました。最近では実証経済学に興味を持って研究しています。若輩者ではありますが、ご指導ご鞭撻いただければ幸いです。

各支部からの便り

★東京支部★

「和田支部長の同窓会会長就任」

昨年10月13日24年度同窓会総会にて西澤会長から和田支部長に会長職を引き継がれ、西澤会長は名誉会長に就任された。

「支部総会開催」

本年3月16日第23回支部総会を学士会館で開催した。記念講演は「日本のエネルギー政策」と題して植田和弘経済学部長にお願いした。時期を得た講演であった。総会を始めるに当たって、学歌斉唱を行い久しぶりに厳かな雰囲気となった。和田支部長の格調の高い挨拶が有り、植田理事長の就任後初めての挨拶が有った。京都から10名の先生のご参加を頂き、理事長からご紹介いただいた。懇親会は西澤名誉会長の乾杯と、3月末で退任される田中秀夫前理事長のご挨拶で始まった。伊東光晴名誉教授の京大への激励の御言葉もあり盛り上がった。終わりに



和田紀夫支部長ごあいさつ
(平成25年3月16日 於：学士会館)



植田経済学部長のご講演



みんなで琵琶湖周航歌合唱

「経済懇話会」

経済懇話会は年3回京大東京オフィスで開催が定着した。昨年6月23日劉徳強教授の「巨大化する中国とどう向き合っていくべきか」という講演があり、10月27日には慶大メディアデザイン科中村伊知哉教授(59年卒)の「情報社会の展望」という、映像を駆使した講演が行われ、若手同窓会員向けの企画として評価された。今年1月19日岩本武和教授による「ユーロ危機と対外インバランス」という講演が有った。いずれも100

「経営研究会」

名を越す参加者となった。この会は河毛正志(44年卒)常任理事に担当してもらっている。新企画として、企業等の現役同窓会員に役立つことを目指し、メール会員のみが発信される仕組みを作り、2月12日(火)18時30分から第1回の経営研究会を開催した。

和田支部長の「リーダーシップとフオロワーシップ」いう講演があり、参加者の名刺交換の場を設けた。第2回は9月11日(水)S M B C日興証券相京



「全学同窓会東京(関東)支部連絡会」

今回発足した掲題連絡会の幹事に経済学部の東京支部が選任された。(他の幹事：医学部、工学部・土木、工学部・機械、農学部・海洋系)以上、常務理事東京支部事務局長 宇野輝(昭和41年卒)が報告いたしました。
E-mail: unok@econ.kyoto-u.ac.jp

京都大学経済学部同窓会東京支部 第22期(2012年度)東京支部収支決算書

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
東京支部総会収入	671,000	支部総会経費	1,213,510
経済懇話会収入	742,600	経済懇話会経費	877,959
支部活動援助金	526,760	事務費・会議費	124,222
(支部活動援助金)	500,000	振込手数料等	5,209
預金利息	813		
(小計(第22期収入額))	2,441,173	(小計(第22期支出額))	2,220,900
前年度繰越金	5,328,926	剰余金(次年度繰越金)	5,549,199
合計	7,770,099	合計	7,770,099

- (注1) 収入の部、支部総会収入は、第22回 2012年3月17日開催、会費5,000円×133名分、および配偶者 3,000円×2名分
- (注2) 収入の部、経済懇話会収入は、第33回～35回開催分
- (注3) 支出の部、経済懇話会経費は、第33回～35回開催分に加え、次回(第36回)の前払金86,310円(京大東京オフィス室料・椅子のレンタル料)を含む
- (注4) 単年度の総収支は、第20期 +343,096円、第21期 +424,129円、第22期 +220,273円と推移している

財産目録 (2012.12.31)			
種類	預入先	金額	摘要
普通預金	りそな銀行日本橋支店	4,374,756	
普通預金	三菱東京UFJ銀行日本橋中央支店	1,174,443	
合計		5,549,199	

京都大学経済学部同窓会
東京支部長 和田 紀夫 殿

第22期支部会計監査報告

京都大学経済学部同窓会東京支部「第22期支部会計報告」(2012年1月1日より2012年12月31日まで)について監査の結果、正確且つ適正であることを認めます。

2013年1月29日

京都大学経済学部同窓会東京支部

監事 廣瀬 勝



来年も元気で会いしましょう！
(平成25年1月17日 於：大阪ガスビル)

★近畿支部★

平成25年1月17日(木)、近畿支部としては2回目となる総会が大阪ガス本社ビル(通称・ガスビル)において、80名の出席のもと開催されました。おりしもガスビルも竣工80周年という大きな節目を迎える中での開催でした。

当日は、ご来賓の先生方のご紹介に続き、出田善蔵近畿支部長、同窓会理事長の植田和弘経済学部長からご挨拶、そして、同窓会常務理事の江上雅彦教授から同窓会の活動状況について、ご報告をいただきました。あわせ



ご講演される宇仁教授



母校は今……「京大も変わったなあ！」

余興では、京都大学の現在の様々な姿を紹介するスライドショーや、京都大学工学部卒でフルート奏者の山本純子さんとピアノ奏者の谷村千恵さんによるミニライブ、そして、彼女たちの伴奏のもと、参加者

て、事務局から平成24年7月に開設された京都大学経済学部同窓会近畿支部ホームページについて、ご紹介しました。その後の講演会では、京都大学経済学研究科の宇仁宏幸教授から「日本の人口縮小にともなう経済的諸問題」というテーマで講演をいただきました。総会終了後、ガスビル食堂において、79名の出席のもとに、懇親会が開催されました。出田支部長のご挨拶、植田学部長の乾杯のご発声を皮切りに、卒業年次を越えて活発な交流が繰り返され、会場のあちこちで笑顔の花が咲きました。



「新生の息吹に満ちて、息吹に満ちて〜」(もはや恒例化?)

全員で「新生の息吹」「琵琶湖周航の歌」を合唱しました。最後に、野尻賢司副支部長から中締めのご挨拶、参加者全員で記念撮影を行い、次年度の再会を誓い合いながら盛会のうちに幕を閉じました。今後、近畿支部では、ホームページの活用などを通じて、会員数の更なる増加、および

京都大学経済学部同窓会近畿支部 平成23年度 近畿支部会計報告書

収支決算書 (H23.4.1~H24.3.31)

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
近畿支部総会収入	456,000	支部総会経費	1,038,810
支部活動援助金	500,000	理事・幹事合同会議費	26,670
預金利息	268	備品費	34,510
		近畿支部HP作成費	100,000
		振込手数料	2,940
(小計(23年度収入額))	956,268	(小計(23年度支出額))	1,202,930
前年度繰越金	1,642,162	剰余金(次年度繰越金)	1,395,500
合計	2,598,430	合計	2,598,430

(注1) 収入の部、支部総会：平成23年12月16日開催、収入は会費6,000円 x 76名分。
(注2) 支出の部、備品費は三支部統会に伴う備品の修正・購入費。

財産目録 (H24.3.31)

種類	預入先	金額	摘要
普通預金	りそな銀行御堂筋支店	1,395,500	
合計		1,395,500	

監査報告
収支決算書および財産目録について、監査の結果、正確且つ適正であることを認めます。

平成24年12月26日
会計監事 林 信
平成24年12月26日
会計監事 内田 博司

卒業生と学生との交流促進を図り、若年層の参画も促しながら支部活動の活性化に努めていきます。
※近畿支部ホームページ
<http://kyoto-u-econ-reunion-kinki.com/>
※近畿支部連絡先
・大阪ガス株式会社 秘書部気付
住所：〒541-0046
大阪市中央区平野町4丁目1番2号
TEL：06-6205-4501
FAX：06-6205-7275
E-mail: zenzo-idea@oskagas.co.jp
出田善蔵(昭和45年卒)

★名古屋支部★

経済学部同窓会本部から送って頂いた本年3月の名古屋支部会員名簿(愛知・岐阜・三重の3県在住者分)によれば、直近の会員数は学部卒614名、大学院卒12名、計626名であり、かなりの規模に達している。

名古屋財界の中心は、以前から非製造業の5社(旧東海銀行、中部電力、名古屋鉄道、東邦ガス、松坂屋)とされてきたが、現在は製造業のシェアが全国1位であり、この勢力分布にもシフトがみられる。一例として、同窓会名簿に基づき、平成元年3月から同25年3月卒業までの25年間について、企業(事業所)別の支部会員数を集計すると、1位はトヨタ自動車で16名、2位は三菱東京UFJ銀行の15名であり、以下中部電力7名、みずほ銀行6名、監査法人トーマツ6名、名古屋市5名が上位に名を連ねている。製造業への就職が増加したことを示す補足例としては、昭和50年代に日本電装(デンソー)へ計8名の卒業生が入社したケースもある。地方公務員志望としては、名古屋市以外に愛知県3名、三重県2名の就職がある。

以上は、平成25年版の名古屋支部会員名簿を見て気付いた点であるが、今回の理事・幹事会に話題の一つとして提供し、今後の同窓会運営に関する資料として利用していきたいと考えている。理事会の主要議題は、次期支部長の選出、理事・幹事の補充、総会の準備である。

眞継 隆(昭和34年卒)

★九州北部支部★

1. 会員数

2000名程度
地元企業・地方自治体等への就職者を中心に、東京・大阪に本社を置く企業の九州北部地区勤務者等により構成。

2. 活動状況

- 〔総会・懇親会〕
例年5月に年1回の総会・懇親会を開催。今年度は、定例の第3水曜日に開催し、25名が参加した。(5月15日、於ホテルニューオータニ博多)
- 総会では、ゲスト参加いただいた江上雅彦



アットホームな雰囲気なので会話も弾みます。
(平成25年5月15日 於：ホテルニューオータニ博多)

教授(同窓会本部常務理事)から、同窓会活動や大学・大学院の近況などをご紹介いただくとともに、恒例となっている参加者による自己紹介が行われ、1年ぶりの再会となったメンバーは、学生時代の思い出や京都への思いのほか、最近取り組んでいる仕事のことなど近況を報告しあい、懇親を深めた。

なお、今回の総会では支部長の改選が行われ、平成12年より長きにわたり支部長職を務めた鎌田支部長に代わり、藤永理事(昭和48年卒)が新たな支部長に就任することが正式に承認された。新支部長からは、新たな支部体制の下でも変わらず本会の活性化に努める旨、挨拶が行われた。

引き続き、本総会以外の懇親会の開催や、同窓会本部・他支部との連携等を図り、同窓生の掘り起こしおよび総会・懇親会への新規参加者増に努めたい。

〔その他〕
同窓生の皆さまにおかれては、九州へ就職、赴任、転居等の機会がありましたら、是非ご連絡をお願いします。

※九州北部支部連絡先
九州電力株式会社 お客さま本部
住所：〒810-8720
福岡市中央区渡辺通2丁目1番82号
TEL：092-47613031
E-mail: Keisuke.Shimozuru@kyuden.co.jp
下水流圭祐(平成13年卒)

京都大学経済学部同窓会九州北部支部 平成24年度 会計報告書

収支決算書 (H24.4.1~H25.3.31)

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
総会収入(※)	200,000	総会経費	197,907
支部活動援助金	100,000	通信費	14,500
預金利息	106	雑費	3,097
(小計(24年度収入額))	300,106	(小計(24年度支出額))	215,504
前年度繰越金	598,321	剰余金(次年度繰越金)	682,923
合計	898,427	合計	898,427

(※) 平成24年5月16日開催、参加者22名分。

財産目録 (H25.3.31)

種類	預入先	金額	摘要
普通預金	福岡銀行 渡辺通支店	682,923	
合	計	682,923	

監査報告
収支決算書および財産目録について、監査の結果、正確且つ適正であることを認めます。

平成25年5月14日
会計監事 宋道亮(実印)

★九州南部支部★

第17回九州南部支部同窓会総会は、平成25年7月20日(土)に宮崎県宮崎市内の宮崎観光ホテルで開催された。当日の総会出席者は昨年より1名多い18名であった。

1. 総会

総会では、瀬地山敏支部長(昭和35年卒)による挨拶の後、支部運営に関する事項の確認並びに報告が行われた。引き続き、同窓会事務局本部からお迎えした経済学研究科講師の末石直也氏から、学部や研究科の近況などについてご紹介いただいた。

▽役員(理事・幹事)について

九州南部支部では例年、熊本県、宮崎県、鹿児島県の各県から1名ずつ理事を選出している。岡野徹氏(昭和38年卒)には、長年にわたって宮崎県の理事を務めていただいたが、今般、理事を退任されることとなり、それに伴い、新理事には宮本智司氏(昭和54年卒 旭有機材工業株)が就任されることとなった。なお、その他の支部役員については継続していただくこととなった。

2. 講話

宮崎公立大学人文学部准教授(京都大学博士)(文



50年代の京大生についてもお話いただいた阪本先生(宮崎公立大)のご講演



末石先生より京大・経済学部の近況について



幅広い年齢層の方々が参加され、世代を超えて和気あいあいとしていました。(平成25年7月20日 於：宮崎観光ホテル)

3. 懇親会

懇親会は、海江田順三郎氏(昭和28年卒 高島屋開発株)の乾杯により開宴。出席者それぞれの近況(学)の阪本博志氏(平成10年文学部卒)より、「1950年代の百万部雑誌と京都大学の学生」と題して、約1時間ご講話をいただいた。阪本氏は1950年代に百万部を突破した雑誌「平凡」「週刊朝日」がどのような読者層をターゲットとし、当時の時代においてどのような役割を果たしたのか、またそれらにまつわる先駆的な活動・研究が、同時代の京都大学の学生によって、どのように行われていたのかを、丹念なインタビュー調査や文献研究などをとに詳細かつ明快に論じられた。京都大学の学生も深く関わる講話の内容に一同熱心に聞き入り、講話終了後には強い感嘆、感銘の声が上がるとともに、多くの質疑応答がなされた。

懇親会は、海江田順三郎氏(昭和28年卒 高島屋開発株)の乾杯により開宴。出席者それぞれの近況

4. その他

今回の九州南部支部総会の開催に先立ち、「西都原古墳群見学会」が企画され、8名が参加した。南



海江田さん(昭和28年卒)の乾杯ごあいさつ

な意見交換をおこなうことができた。

報告、学生時代の思い出話、今後の展望などについて、酒盞を交わしながら歓談がおこなわれた。今回は、3名の会員が新たに参加し、また比較的若い世代の出席も多かったことから、世代を超えた活発な交流ができ、終始和やかな雰囲気のもと、有意義な意見交換をおこなうことができた。

九州におけるいしへの生活や文化について、それぞれが思いを巡らせる貴重な機会となった。今回の見学会を企画・実施してくださった宮本智司氏ならびに村上秀幸氏(平成5年卒 新日本有限責任監査法人)には厚く御礼申し上げます。
※九州南部支部連絡先

- ・住所：〒891-0197
- ・鹿児島市坂之上8-1-34-1
- ・鹿児島国際大学経済学部(富澤研究室)
- ・TEL：099-263-0717
- ・FAX：099-261-3606
- ・E-mail：tomizawa@eco.iuk.ac.jp

富澤拓志(平成2年卒)

京都大学経済学部同窓会九州南部支部 平成24年度 九州南部支部会計報告書

収支決算書

(H24.4.1~H25.3.31)

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
九州南部支部総会収入	105,000	支部総会経費	164,256
支部活動援助金	100,000	通信費	11,680
預金利息	52	事務費	4,492
		振込手数料	840
(小計(24年度収入額))	205,052	(小計(24年度支出額))	181,268
前年度繰越金	264,127	剰余金(次年度繰越金)	287,911
合計	469,179	合計	469,179

(注) 収入の部、支部総会収入は、平成24年7月28日開催、会費7,000円×15名分。

財産目録

(H25.3.31)

種類	預入先	金額	摘要
普通預金	鹿児島銀行坂之上支店	287,911	
合計		287,911	

監査報告

収支決算書および財産目録について、監査の結果、正確且つ適正であることを認めます。

平成25年7月20日

監事

菊地裕幸

京都大学経済学部 卒業50周年記念同窓会

経済学部を卒業されて50年の節目の年には、各学年の有志の方が幹事、世話人としてご尽力いただき、毎年記念同窓会が開催されています。

♣ 昭和37年卒 ♣

前日の大雨から一転快晴となった2012年11月12日(月)午後1時半、京大百周年時計台記念館・国際交流ホールにて、進行役の橋本勝好氏(E4)の司会で我々37年卒の卒業50周年記念同窓会が始まりました。参加者は4クラスで67名でした。入学時の定員は200名で、亡くなった方々が32名おられ実質総数168名の約4割です。まずまずの出席率と言えるところです。

開催にいたる迄には色々困難がありました。我々37年卒はクラス会はやっても、一度も全体で集まった事が無く、あるクラスはこれまでクラス会をやった事が無く名簿がありませんでした。取り敢えず各クラスの世話人が集まったのは2月15日で、春開催はとて無理なので秋開催とし11月12日と決定しました。召集状の発送の為に名簿の完成が急がれ、並行して案内文及び返信用葉書の作成を行い、4月4日に発送準備作業に入りました。5月末締め切りで参加予定者は66名でその後色々出入りがありました。ほぼこの人数で当日を迎える事が出来ました。予算面ではなるべ



昭和37年卒 京都大学経済学部卒業50周年記念同窓会
(平成24年11月12日 於：京都大学百周年時計台記念館)

く無駄を省き会費1万円とし、同窓会の数日後には決算を終え、残金については金額を京都大学基金へ寄付いたしました。当日は開会の挨拶をE2の小泉谷造氏が行い、引き続き世話人のE1坂本和一氏、E3本田泰造氏の紹介がありました。その後無くなった32名の方々に黙祷を捧げました。来賓として来て頂いた植田和弘学部長、経済学部同窓会の江上教授、担当の田村さんの紹介の後、植田学部長から挨拶を頂き、次いで坂本

氏(E1)が乾杯の音頭を取り、懇親に移りました。

会食は着席フランス風ビュッフェの形を取ったので、クラス単位でテーブルに着きました。話は良く弾み、50年ぶりの再会を楽しんだ方もおられた様です。この後植田学部長を真ん中にして全員で写真を撮り、更に全員で「京大唱歌」「紅萌ゆる」を斉唱しました。かくして午後3時半過ぎ記念同窓会が無事終了しました。

その後クラス会や有志の集いが楽友会館、料亭などに行われ、翌日ゴルフを行うクラスもありました。最後に経済学部同窓会事務局、世話人を助けて頂いた有志の方々に心よりお礼を申し上げます。世話人一同

♣ 昭和38年卒 ♣

大安吉日。空青く新緑の香る5月23日に卒業50周年記念同窓会を開催しました。参加者は、仲間85名と奥様4名。該当者の約5割の出席率でした。

会場に入ると大スクリーンに卒業アルバムの写真が映し出され、BGMに懐かしいメロデーが流れ雰囲気盛り上がりしました。ご臨席頂いた植田経済学部長から「経済学部の最大の課題は、創設100周年を6年後に迎えること。世界に冠たる高い水準とランクの学部を目指すこと。」とお話がありました。

それに続く懇親会の2時間は、あつという間に過ぎました。卒業以来の50年ぶりの再会者も多く話題は尽きぬ懇親会でした。



昭和38年卒
京都大学経済学部卒業50周年記念同窓会
(平成25年5月23日 於：京都大学百周年時計台記念館)

最後のフィナーレは、応援団の方々に来て頂き、応援歌と学歌を全員で斉唱しました。応援団のエネルギーもチャージャーも迫力満点で京大にいたという実感と凄いエネルギーを貰いました。この日のスナップ写真と卒業アルバムを1枚のDVDに収め、参加者や希望者に配布予定です。素晴らしい思い出となります。合同の同窓会の後、クラス単位で2次会が開催されました。ここでも話題が尽きませんでした。

卒業50周年記念(昭和39年卒) 同窓会開催のお知らせ

*日時：平成26年5月22日(木)

午後1時30分～4時30分

*会場：京都大学百周年時計台記念館

2階国際交流ホールⅡ・Ⅲ

*次第：学部長の挨拶、乾杯、着席

ビュッフェ、写真撮影など

*会費：1万円(当日申し受けます)

以上、大学での合同懇親会と共に施

設見学会(午前)、クラス単位の懇親

会(夜)も企画されています。詳細は

後日皆様にもご案内します。

準備会(クラス幹事、事務局)

E1 梅本弘、土屋基、富島紘一、

安藤重寿

E2 川畑昭一、内田将志、眞下和久

E3 有島利之、辻貞夫、上野寿隆

E4 跡田紀彦、松波拓見、北原(立

脇)辰義

事務局

中野一新、東喜代彦(統括)、

河合司二(庶務)、浪江巖(会

計)、松田成人(名簿)

大学本部の行事

平成24年度総会のご報告

平成24年10月13日(土)、法経本館第5教室および京都大学百周年時計台記念館国際交流ホールにて、平成24年度の同窓会総会が開催されました。理事会・総会において、新会長に和田紀夫さんが就任されました。和田さんは昭和39年の卒業で、日本電信電話(NTT)の社長、会長として10年に渡り同社を率いて来ら

れ、わが国の通信網・通信技術の発展に多大な貢献をされました。現在も同社の相談役であるとともに、経済界で活躍しておられます。前会長の西澤宏繁さんは、名誉会長として今後も同窓会活動に携わっていただくこととなりました。また、事務局から「平成23年度の同窓会決算報告」および「平成24年度の予算案報告」が



好評だった植田学部長の講演会
(於：法経5番教室)

なされ、理事会・総会で承認されました。講演会は法経第5教室で開催され、植田学部長(同窓会理事長)が「日本のエネルギー政策」という演題で講演をされました。原子力発電に関する諸問題、リスクを考慮した発電コストの算定、再生可能エネルギーの意義、今後のエネルギーシステムの再設計などについてのお話は、様々な角度から喫緊の課題に関して解説・分析・提言をされたもので、100名余の参加があり、参加された皆様からは「原発問題についてとてもわかりやすい説明で大変満足しました」とのお声を多数いただきました。

その後、懇親会場へ移り、まず和田新会長のご挨拶、出田近畿支部長の乾杯のご発声に続き、新たな企画として在学生による学部卒業論文の発表が行われました。今回は渡邊誠士さん(平成23年卒、当時は修士2回生在籍中)と毛利浩明さん(平成25年卒、当時は学部4回生在籍中)に発表していただきました。大先輩たちが耳を傾ける中、お2人とも堂々と発表され、発表後には



ご出席ありがとうございました。本年もぜひご参加ください！
(平成24年10月13日 於：京都大学百周年時計台記念館)

加を是非お待ちしております。また総会に関しましてのご意見・ご要望につきましては、同封いたしました「総会出欠ハガキ」にご記入の上ご返送いただくか、もしくはEメール・FAXなどでも受付しておりますので、お知らせくださいますと幸いです。(京都大学経済学部同窓会事務局)

※同窓会の連絡先は、会報裏面に記載しております。



和田新会長のご挨拶

先輩方から積極的に質問や提案があり、熱心に先輩のお話を聞くという場面も見られました。その後も一同和やかに歓談され、植田学部長の閉会のご挨拶の後、最後に全員で記念写真を撮影し、お開きとなりました。

昨年からの総会にお越しいただいた方全員に、経済学部同窓会オリジナルグッズを作成し記念品としてお渡ししております。今後いろいろな企画を考えて、参加して本当によかったと思っただけの楽しく有意義な懇親会にしていきたいと考えておりますので、今年度(平成25年10月19日(土))も皆様のご参加

在学生イベント、2013

在学中から同窓会活動に携わっていただくことを目的とした「学生特別会員」を募集してから今年度で早くも5年目を迎えました。毎年、学生特別会員の皆さまには、ゼミや回生を超えた学生同士の交流、卒業生との交流を深める機会を提供するものとして「在学生イベント」を実施しております。開催5回目となる今年度は、7月4日（木）に百周年時計台記念館国際交流ホールI・IIにおいて、講演会および立食パーティ&ゲーム大会を開催しました。ここ数年は、100名を超える在学生会が参加してくれています。

講演会には、昭和44年卒業の野尻賢司さんを講師としてお招きしました。野尻さんは、日立造船、イーライリリーといった日本企業と外資系企業の両方で活躍され、現在は企業向けコンサルティング、人材育成プログラムなどに携わるパフォーマンス・マネジメント研究所を主宰されています。講演は『グローバルな世界で活躍したいあなたに・日本企業と外資系企業、文化はどう違う?』という演題で、外資系企業の人材育成や企業文化についてお話しを頂きました。野尻さんの経験に基づいた具体的な内容で、聴講者からも、「外資系企業は、ハードでドライというイメージだけを漠然と持っていたが、知らないことをたくさん教

えて頂き、とても興味が湧いた」などの感想がたくさん寄せられました。学生の今後の職業選択のためにも、とて



最後にみんなで記念撮影♪ また来年!!
(平成25年7月4日 於：京都大学百周年時計台記念館)

も参考になるご講演をさせて頂き、大変感謝しております。立食パーティでは、はじめに同窓会学内企画委員長である末松千尋先生のご挨拶に続き、参加者の中では在学生に最も年が近い末石直也先生に乾杯の



ご挨拶をいただきました。乾杯の発声のあと、お料理が豪華に盛り付けられたセンターテーブルに皆が一斉に集まり、にぎやかな食事が始まりました。少ししてゲーム大会（昨年好評だった『〇×クイズ』と『名前ビンゴ』）が行われました。実行スタッフの皆さん

の機知に富んだ運営により、参加者からは「すごく楽しい会だった」とのコメントが多数寄せられました。またゲーム大会中でも講演者の野尻さんを囲んで学生さんが質問をするという場面も見られました。終わりに近づき恒例の記念写真を撮影するため、今年は講演会場に移動してもらい、撮影後には、副研究科長の武石彰先生の閉会のご挨拶でお開きとなりました。

このようなOB、教員、在学生会が一堂に会する機会を通じて、今後も若い世代の皆さまが経済学部や同窓会に愛着を持たれ、将来、経済学部同窓会を支えていくてくださることを願っております。最後になりましたが、企画・準備から当日の運営・片付けまでお手伝いくださいました学生スタッフ（天野史也くん、岩本麻奈美さん、加古裕貴くん、西村直記くん、野尻昌仁くん）に厚く御礼申し上げます。
(同窓会事務局)

留学生を家族に!!

京都大学に学ぶ留学生を家族の一員に迎えるホストファミリーの会があります。ホームステイではありません。家族的な交流を通じて、彼らの日本理解と、心の安らぎを目指すものです。1984年に活動を開始し、留学生を累計1700人以上受け入れてきました。

是非ホストファミリーになって頂き、留学生が心豊かな日本生活を送れるようにサポートをお願いします。詳しくは、京都ホストファミリー協会 (KAHF) のHP <http://kahf.web.fc2.com/intro.html> をご覧下さい。

桑原節雄 (昭和38年卒)



卒業生主催の同窓会

一一会(故・小野一一郎ゼミ生の会) 活動報告

我が恩師小野一一郎先生は、平成元年3月京都大学教授を定年退官、その後、



小野ゼミ一一会の集い 小野一一郎先生17回忌
(平成24年12月1日 於：新・都ホテル)

阪南大学に勤務され、70歳で定年退職されました。翌年、平成8年12月7日に、71歳、肺炎で急逝されました。

ご健在中も一一会(28期、239名)の活動は盛んに行われていましたが、亡くなられた後も宣代奥様が、ゼミ生皆の顔と名前を覚えて頂いており、メンバーの住所も年賀状を通じてしっかり管理して頂いているお陰で、一一会の集いを途切れることなく、今まで開催することが出来ました。

そして、昨年の平成24年12月1日に一七回忌の集いを、京都駅直近の新・都ホテルで約70名の参加を得て開催されました。集合写真撮影、開会挨拶(西山慈恩・第一期・昭和37年卒)、CD拝聴(小野一一郎先生退官講義の一部)、献杯(安藤哲生・第一期・昭和37年卒)と続き、その後会食、参加者スピーチ、交流タイムなど時間があつと言う間に過ぎました。そして、86歳になられた宣代奥様が、しっかりとした口調でご挨拶されました。閉会挨拶(福田征二郎・第一期・昭和37年卒)の後、逍遙の歌を全員で合唱してお開きとなりました。

吉村昭道(第5期・昭和41年卒)

木原ゼミ・正正会 再開される

木原正雄先生が平成20年6月にご逝去された後としては、初めての同窓会(正正会)総会が、平成24年11月24日(土)、楽友会館にて、遠く長崎・北九州・東京からの参加者も含め、21人が集まり開催された。正正会の総会としては、平成7年1月以来、実に17年ぶりの再開となった。

黙祷を捧げた後、ご欠席された奥様・富美子様のご先生を偲ぶメッセージを、ご長男・正義様(昭和46年野



木原ゼミ・正正会
(平成24年11月24日 於：楽友会館)

沢ゼミ卒)が代読された。その後の各人のスピーチでも、先生のお人柄、研究・学問の分野での業績やご経歴、経済学部長の時のご苦労、家庭人として垣間見られた日常の様子等々が次々と披露され、また参加メンバー各人の近況が報告されるなど、楽しい一時を過ごしながら、来年の再会を誓い合った。

★ ★ ★
次回は、平成25年10月12日(土)

12時00分～14時00分
京大・百周年時計台記念館にて開催。

(ご案内は8月頃発送の予定)

正正会事務局 出田善蔵の連絡先

大阪ガス(株)秘書部分室 気付

TEL..06620514501

FAX..06620517275

E-mail: zenzo-idea@osakagas.co.jp



菱山泉先生 七回忌偲ぶ会

菱山名誉教授が亡くなられて6年を迎え、本年2月17日七回忌命日となりました。4年振りとなります京都での菱山会が2月16日(土)正午、先生の七回忌法要のため、京大楽友会館で開催されました。偲ぶ会に先立ち三々五々雪の舞い散る南禅寺の墓前に赴きました。

偲ぶ会の初めに、先生の奥様、ご子息様を囲んで記念写真を撮りました。世話人の皆さんのご挨拶が有り、引き続き奥様のご挨拶を頂戴しました。先



菱山泉先生 七回忌
(平成25年2月16日 於：楽友会館)

生がゼミを持たれた頃のお話から始まり、ケンブリッジ、ソルボンヌ大学へ客員教授として招かれたこと、学部長時代の学園紛争のこと、イタリアへスラッファー研究に出かけられたこと等々、菱山会でのゼミ生には夫々時代は違えども思い出深い話となりました。偲ぶ会の記念スピーチは59年卒の京大経済学部江上雅彦教授にお願いしました。37年卒南部哲郎様の献杯のご発声で懇親会に入り、38年宇治様、39年松原様、40年徳田様から若き頃の先生の熱血教師ぶりを拝聴することが出来ました。後半最若手の60年大澤様そして先生から学問の精神を引き継いでおられる院生の平成2年黒木龍三・林田治男両教授にレベルの高いお話を頂きました。終わりに当たり、ご子息出様の父として、学者としてののお話を賜り先生の偉大さを改めて知ることが出来ました。締めとして41年の宇野様より、今後隔年ごとに京都、東京での菱山会開催や、先生の薫陶を受けて社会で活躍しているゼミ生約250名が同窓会の発展に尽力してほしい旨のお話が有りました。最後に全員で琵琶湖周航歌を唄い、世話人より奥様に謝辞を述べ再会を約して散会しました。

世話人 香川隆裕(昭和50年卒)

川村嘉則(昭和50年卒)

清水俊晴(昭和55年卒)

2013年度神戸地区同窓会

7月19日に12名が参加して同窓会が「西村屋ダイニング」で開催された。あいにく会長の大阪産業大学学長の本山美彦先生が超多忙で欠席され、残念でした。今年は新しい試みとして懇親会の前に「グローバル人材育成」についての30分のワークショップを行ない参加者の交流を深めた。文部科学省の資料に目を通したのち、自分の経験に基づきグローバル人材に必要な要素について二人がペアになって議論し、そのあと意見交換をした。主な提言は次のとおり。

- ・若い人がもつ好奇心をもち、目を外に向けること。

- ・英語力は必須であるが、同時に日本語をしっかりと身につけ、日本語としての構想力を習得すること。その意味から小学校段階で英語学習を開始することは問題あり。

- ・単なる英語が話せるというのではなく、話す中身をもっている必要がある。英語を話せることだけではグローバル人材にはなれない。そのためにも学生時代に幅広い教養を身につけること。3回生から就活に振り回されるのは問題。

- ・日本企業は異文化をもつと勉強し、受容すべきである。またグローバルの世界で通じるリーダーシップスタイル、対人コミュニケーション・スタイルを学ぶべきである。

- ・ネイティブスピーカーが通常のスピードで話す英語を理解できるレベルが必要。

懇親会では各参加者が近況を報告。また、

京都大学からは佐々木啓明准教授に来ていただき、経済学部の現況をご説明頂いた。
(有)パフォーマンス・マネジメント研究所気付

E-mail: nojirin@jimo-mail.jp

野尻賢司(昭和44年卒)



グローバル人材について語り合いました！
(平成25年7月19日 於：西村屋ダイニング)

会報第17号への記事募集!

経済学部同窓会では、会員の皆様よりこの同窓会報に掲載する記事を募集しております。ゼミ会、クラス会などのご案内・ご報告、また同窓会活動・京大経済学部に関係のある記事等ございましたら、是非とも同窓会事務局(E-mail: dosokai@econ.kyoto-u.ac.jp) までお寄せください。

京都大学経済学部同窓会の活動

(平成24年6月～平成25年6月)

平成24年(2012年)

- 6月23日 東京支部第34回経済懇話会が京大東京オフィスにて開催される。
(講演「巨大化する中国経済とどう向き合っていくべきか」
京都大学経済学研究科 教授 劉 徳強 氏)
- 7月 6日 経済学部在学生向けイベント(講演会・懇親会)が京都大学にて開催される。
7月11日 神戸地区同窓会が神戸国際会館「西村屋ダイニング」にて開催される。
7月13日 平成23年度収支決算の監査を受ける。
7月23日 東京支部理事会が京大東京オフィスにて開催される。
7月28日 九州南部支部総会が熊本県の全日空ホテルニュースカイにて開催される。
8月20日 京都大学経済学部同窓会会報第15号が発行される。
10月13日 全国総会・理事会が京大百周年時計台記念館、法経本館第五教室にて開催される。
(講演「日本のエネルギー政策」
京都大学経済学研究科 教授 植田和弘 氏)
- 10月27日 東京支部第35回経済懇話会が京大東京オフィスにて開催される。
(講演「情報社会の展望」
慶応義塾大学メディアデザイン研究科 教授 中村伊知哉 氏)
- 11月12日 卒業50周年記念総会が百周年時計台記念館にて開催される。(S37年卒)
11月15日 近畿支部第1回理事会・幹事会が京都大学経済学部にて開催される。
11月27日 東京支部常任理事会が東京會館にて開催される。

平成25年(2013年)

- 1月17日 近畿支部理事・幹事合同会議・総会が大阪ガスビルにて開催される。
(講演「日本の人口縮小にともなう経済的諸問題」
京都大学経済学研究科 教授 宇仁宏幸 氏)
- 1月19日 東京支部第36回経済懇話会が京大東京オフィスにて開催される。
(講演「ユーロ危機と対外インバランス」
京都大学経済学研究科 教授 岩本武和 氏)
- 1月29日 東京支部理事会が京大東京オフィスにて開催される。
2月12日 東京支部経営研究会が京大東京オフィスにて開催される。
(講演「リーダーシップとフォロワーシップ」
NTT相談役・経済学部同窓会会長 和田紀夫 氏)
- 3月16日 東京支部総会が学士会館にて開催される。
(講演「日本のエネルギー政策」
京都大学経済学研究科 教授 植田和弘 氏)
- 5月15日 九州北部支部総会がホテルニューオータニ博多にて開催される。
5月23日 卒業50周年記念総会が百周年時計台記念館にて開催される。(S38年卒)
5月28日 東京支部常任理事会が東京會館にて開催される。
6月22日 東京支部第37回経済懇話会が京大東京オフィスにて開催される。
(講演「株式投資の科学」
京都大学経済学研究科 教授 加藤康之 氏)

京都大学経済学部同窓会 役員名簿

平成24年10月13日現在

本部役職	氏名	卒業年	所属支部		勤務先
名誉会長	西澤 宏繁	36	東 京		
会 長	和田 紀夫	39	東 京	(東京支部長)	日本電信電話株式会社
副会長	鎌田 迪貞※	33	九 州 北 部	(九州北部支部長)	九州電力株式会社
副会長	真継 隆	34	名 古 屋	(名古屋支部長)	
副会長	瀬地山 敏	35	九 州 南 部	(九州南部支部長)	鹿児島国際大学
副会長	千葉 昭	44	香 川	(香川支部長)	四国電力株式会社
副会長	出田 善蔵	45	近 畿	(近畿支部長)	大阪ガス株式会社
常務理事	宇野 輝	41	東 京		株式会社森精機製作所
理 事	辻井 昭雄	31	近 畿		近畿日本鉄道株式会社
理 事	野々内 隆	31	東 京		財団法人経済産業調査会
理 事	中田 一男	32	東 京		株式会社ドワンゴ
理 事	山本 喜朗	33	東 京		一畑電気鉄道株式会社
理 事	坂本 典之	34	東 京		株式会社ワイ・デー・ケー
理 事	合田 隆年	35	東 京		大丸産業株式会社
理 事	岡野 徹	38	東京・九南		旭有機材工業株式会社
理 事	柿本 壽明	39	東 京		株式会社日本総合研究所
理 事	木津 雅敏	29	近 畿		神戸モールド株式会社
理 事	板東 慧	32	近 畿		社団法人国際経済労働研究所
理 事	大森 経徳	33	近 畿		京都大学東アジア経済研究センター協力会
理 事	岡澤 元大	34	近 畿		
理 事	田中 義雄	38	近 畿		株式会社J E U G I A
理 事	河合 司二	39	近 畿		大和ハウス工業株式会社
理 事	本山 美彦	40	近 畿		大阪産業大学
理 事	野尻 賢司	44	近 畿	(近畿副支部長)	有限会社 パフォーマンス・マネジメント研究所
理 事	麻生 純	47	近 畿	(近畿副支部長)	京都信用保証協会
理 事	小塚修一郎	47	近 畿	(近畿副支部長)	住友金属工業株式会社
理 事	戸神 良章	52	近 畿	(近畿副支部長)	関西電力株式会社
理 事	林 洋	52	近 畿	(近畿副支部長)	奈良県
理 事	三木 毅	22	北 海 道	(北海道支部長)	
理 事	酒井 純	52	北 海 道		公認会計士酒井純事務所
理 事	高井 睦朗	34	名 古 屋	(名古屋副支部長)	
理 事	加藤 英二	36	名 古 屋	(名古屋副支部長)	カリモク家具株式会社
理 事	木内 正洋	40	名 古 屋		
理 事	坂神 裕城	41	名 古 屋		
理 事	杉山 重昂	44	名 古 屋		
理 事	古谷 俊男	51	名 古 屋		東京トヨペット株式会社
理 事	渡邊 智樹	49	香 川	(香川副支部長)	株式会社百十四銀行
理 事	村田 武	41	愛 媛	(愛媛副支部長)	愛媛大学
理 事	黒瀬 和男	30	九 州 北 部		
理 事	橋本 剛	43	九 州 北 部		九州工業大学
理 事	藤永 憲一※	48	九 州 北 部		株式会社九電工
理 事	薬真寺偉臣	51	九 州 北 部		九州電力株式会社
理 事	花田 恭一	53	九 州 北 部		株式会社福岡スポーツセンター
理 事	丸元 貞夫	38	九 州 南 部		阪東機工株式会社
理 事	林田 素行	44	九 州 南 部		林田公認会計士事務所
監 事	大川 雅司	47	近 畿	(近畿副支部長)	大川雅司公認会計士・税理士事務所

※平成25年度同窓会総会において、

- ・九州北部支部：鎌田迪貞副会長が退任、藤永憲一理事が副会長（九州北部支部長）に就任予定です。
- ・九州南部支部：新たに宮本智司氏が理事に就任予定です。

京都大学経済学部同窓会 役員名簿

【大学本部】

本部役職	氏 名	現 職
理 事 長	植田 和弘	経済学研究科長・経済学部長
常 務 理 事	江上 雅彦	経済学研究科・経済学部教授
理 事	石水 喜夫	経済学研究科・経済学部教授
理 事	依田 高典	経済学研究科・経済学部教授
理 事	岩本 武和	経済学研究科・経済学部教授
理 事	宇高 淳郎	経済学研究科・経済学部教授
理 事	宇仁 宏幸	経済学研究科・経済学部教授
理 事	岡田 知弘	経済学研究科・経済学部教授、公共政策大学院長
理 事	加藤 康之	経済学研究科・経済学部教授、経営管理大学院教授
理 事	川北 英隆	経営管理大学院教授
理 事	黒澤 隆文	経済学研究科・経済学部教授
理 事	小島 専孝	経済学研究科・経済学部教授
理 事	澤邊 紀生	経済学研究科・経済学部教授、経営管理大学院教授
理 事	塩地 洋	経済学研究科・経済学部教授
理 事	島本 哲朗	経済学研究科・経済学部教授
理 事	末松 千尋	経済学研究科・経済学部教授、経営管理大学院教授
理 事	椛山 泰生	経済学研究科・経済学部教授、経営管理大学院教授
理 事	武石 彰	経済学研究科・経済学部教授
理 事	徳賀 芳弘	経済学研究科・経済学部教授、経営管理大学院長
理 事	成生 達彦	経済学研究科・経済学部教授、経営管理大学院教授
理 事	西牟田祐二	経済学研究科・経済学部教授
理 事	根井 雅弘	経済学研究科・経済学部教授
理 事	原 良憲	経営管理大学院教授
理 事	日置弘一郎	経済学研究科・経済学部教授、経営管理大学院教授
理 事	久野 秀二	経済学研究科・経済学部教授
理 事	久本 憲夫	経済学研究科・経済学部教授、公共政策大学院教授
理 事	藤井 秀樹	経済学研究科・経済学部教授
理 事	堀 和生	経済学研究科・経済学部教授
理 事	松井 啓之	経済学研究科・経済学部教授、経営管理大学院教授
理 事	文 世一	経済学研究科・経済学部教授
理 事	諸富 徹	経済学研究科・経済学部教授
理 事	劉 徳強	経済学研究科・経済学部教授、地球環境学堂教授
理 事	若林 直樹	経済学研究科・経済学部教授、経営管理大学院教授
理 事	若林 靖永	経済学研究科・経済学部教授、経営管理大学院教授
理 事	渡辺 純子	経済学研究科・経済学部教授
監 事	草野 真樹	経済学研究科・経済学部准教授
【同窓会学内企画委員会委員】		
委 員 長	末松 千尋	同上
委 員	諸富 徹	同上
委 員	佐々木啓明	経済学研究科・経済学部准教授
委 員	飯山 将晃	経済学研究科・経済学部准教授
委 員	末石 直也	経済学研究科・経済学部講師

※平成25年3月にご退職された田中秀夫教授は掲載しておりません。
教員の現職および学内企画委員につきましては平成25年4月現在で反映しております。

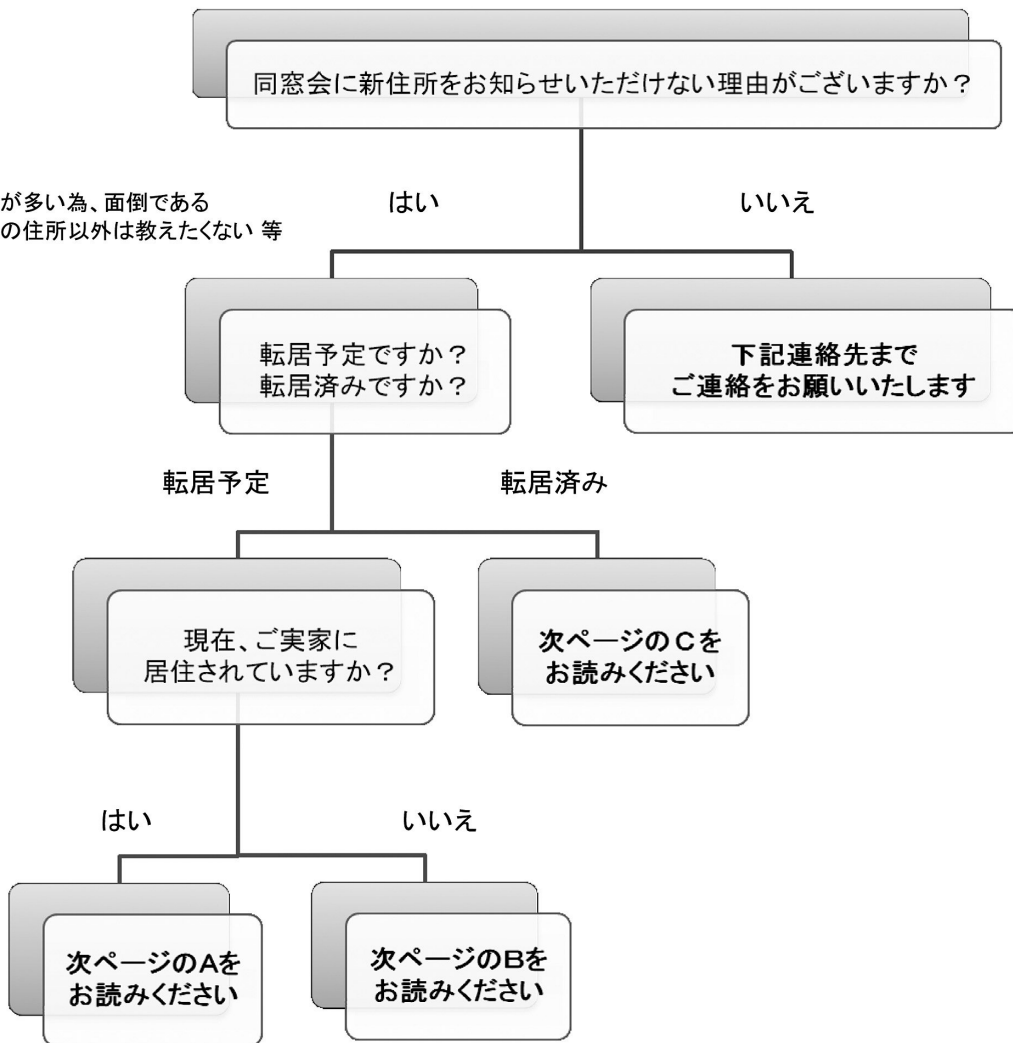
【保存版】郵便物を確実に受けとっていただくために！



同窓会に新住所をまだお知らせいただけていない方にお伺いします。
(転居予定および転居済みの方)

例:

- * 転居が多い為、面倒である
- * 実家の住所以外は教えたくない等



同窓会の住所登録の変更はいつでも可能です。

電話・FAX・メール・同窓会ホームページ内の「個人情報変更届」などをご利用ください。

TEL/FAX: 075-753-3419 Email: dosokai@econ.kyoto-u.ac.jp

ホームページURL <http://www.econ.kyoto-u.ac.jp/~dosokai/henkoutodoke.html>

「京都大学経済学部同窓会」とキーワード検索していただいてもご覧いただけます。

※お電話にてお知らせいただく場合は、月～金（土・日・祝 休）10：00～16：00（12：00～13：00除く）
をお願いいたします。

次ページに記載しました例以外にもさまざまなケースが考えられます。

状況により転居届の提出方法が異なりますので、ご不明なことやお困りのことがございましたら、
同窓会事務局にご遠慮なくお問い合わせください。

例えば、ご実家に住んでおられる方が転居に伴い「転居届」の「旧住所」欄にご実家の住所を記入し、提出されますと、1年の転送期間満了後、ご実家に送られてくるご本人様名義の郵便物は、そこにご家族の方が居住されていても、どんなに大切な郵便物であっても、転居済みと判断され、配達してもらえないのが原則です。その為、発送元に新住所を通知されない限り、以降郵便物が受け取れなくなるという事態が発生します。そこで…

前ページのフローチャート結果をもとに、以下の手続きをしていただくことで、転居届を提出してから1年が経過した後ご実家に送られてくるご本人様宛ての郵便物はそのままご実家へ、新住所へ送られる郵便物は新住所へそれぞれ配達されますので、確実にお受け取りいただくことができます。

郵便物の不着を防ぐ方法

(ご実家に配達されます)

A・・・現在、ご実家にお住まいで、「新住所」へ転居予定の方

- ① 転居届をお手元に1枚ご用意いただき、「旧住所」欄にご実家の住所を記入せず、新住所欄のみご記入の上、お近くの郵便局へご提出ください。

B・・・現在、ご実家以外にお住まいで、「新住所」へ転居予定の方

- ① 転居届をお手元に2枚ご用意いただき、2枚ともご提出ください。
- ② 1枚目に退去される住所を「旧住所」欄に記入します。※退去後、旧住所へ郵便物が届かないようにする為です。
- ③ 1枚目の「新住所」欄に、新住所を記入します。※1年間は退去された旧住所への郵便物が新住所へ転送されます。
- ④ 2枚目の「新住所」欄に、ご実家の住所を記入します。※実際にご本人様にご実家に居住されていなくても問題ありません。
- ⑤ 2枚目の「旧住所」欄は、何も記入せず、空白のまま お近くの郵便局へご提出ください。
- ⑥ 郵便局へ提出後、できるだけお早めに提出された日とご実家の住所を同窓会にお知らせください。

C・・・現在、すでに転居済みの方

- ① 「転居届」をお手元に1枚ご用意いただき、「新住所」欄に、ご実家の住所を記入します。(※1)
- ② 「旧住所」欄には何も記入せず空白のまま お近くの郵便局へご提出ください。
- ③ 郵便局へ提出後、できるだけお早めに提出された日とご実家の住所を同窓会にお知らせください。
(※1)実際にご本人様にご実家に居住されていなくても問題ございません。

【ご注意】

- ・ご実家に届いたご本人様宛ての郵便物は、**新住所に転送されることはありません**ので、新住所にてご本人様が受け取りたい大切な郵便物は、必ず発送元へ住所変更の連絡をしていただくことをおすすめいたします。
- ・ご実家が転居をされた時は、新しいご実家の住所を必ず発送元にお知らせください。

上記の方法により、同窓会からのご案内(大学の状況をお知らせする会報・卒業生名簿・本部総会、支部のイベント等)なども含め、その他郵便物も確実にお受け取りいただくことができます。

この書面の内容は、日本郵便(株)に確認しておりますが、転居届に関して、又は郵便受取に際して万一損害等が発生した場合でも京都大学経済学部同窓会が責任を負うことはできませんのでご了承ください。

ご不明な点等ございましたら、最寄りの郵便局にてご確認のうえ、「転居届」の提出をしていただきますよう、お願い申し上げます。

※転居届は郵便局で入手できます。(webでも手続きOK!「ウェルカムタウン」とキーワード検索してください)

お知らせ

平成27年度発行予定の卒業生名簿について

卒業生名簿（最新版）を、平成27年度中に発行する予定で準備を進めております。つきましては発行するにあたり皆様のご意向を把握したいと存じますので、下の簡単なアンケートにお答えくださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

アンケート

今後の卒業生名簿につきまして、AとBのどちらを希望されますか？

A：今まで通り、A4冊子での配布を希望する 

B：パソコンなどで閲覧ができるCD-ROM版の配布を希望する 

回答は、この会報に挿み込まれている「総会出欠ハガキ」のアンケート回答欄にご記入の上、ポストに投函（※切手不要）していただくか、もしくはメールにてご回答願います。

なお、経済学部同窓会が発行する卒業生名簿は、同窓会年会費を納入していただいた皆様に今後も無償で配布いたします。

同窓会年会費納入のお願い

平成25年度（平成25年4月～平成26年3月）の同窓会年会費5,000円を同封の払込用紙（手数料無料）にて納入くださいますよう、ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

個人情報変更の届出について

住所・勤務先など、会員ご自身の情報が変更になられた場合は、事務局までご連絡ください。正確を期すために、郵送・FAX・E-Mailでのご連絡をお願いしております。記入・送信用の書式「京都大学経済学部同窓会個人情報変更届」はホームページよりダウンロードしてお使いください。

京都大学経済学部同窓会

検索 

ご注意ください!

本年2月ごろに、ある出版業者から卒業生の元へ、『職業別同窓名鑑(文学部・経済学部)発刊のお知らせ』と題する往復ハガキが届いていることがわかりました。これは、最新の個人情報の提供と同窓名鑑の購入を呼びかけるものですが、この出版業者と京都大学経済学部および経済学部同窓会は**一切関係がございません**。今後も同様の手段で個人情報の提供や名簿購入の依頼等が届く可能性があります。返事や振り込み等をなさないように十分ご注意願います。

各種情報につきましては、経済学部同窓会のホームページに逐次掲載いたしますので、是非ご覧ください。最近では、経済学部同窓会からの正式な郵便物には、京大のロゴマークを印刷するように心がけております。ロゴマークがない等の不審な郵便物が届きました場合は、経済学部同窓会事務局までご連絡なくお問い合わせください。

経済学部同窓会では、卒業生名簿を販売形式ではなく、年会費を納めていただいた方全員に**無償で配布**しております。

※同窓会の連絡先は会報裏面に記載しております。



※往復はがきイメージ

「同好クラブVISAカード」入会のご案内

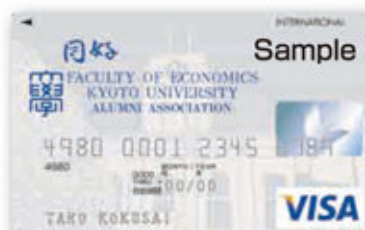
京都大学経済学部同窓会では、三井住友カード株式会社と提携し「同好クラブ VISA カード」を発行しております。このカードは、京都大学経済学部同窓会の会員のみが加入できるステータスの高いカードで、デザインは、経済学部70周年記念に使用いたしました写真(飯野春樹氏撮影)を図案化し、皆様に馴染みの深い時計台を取り入れたもので、母校への愛着と絆が一層強まることを目指しております。

経済学部同窓会では、このカードの発行により、会員の皆様の住所や勤務先の変更を正確に把握できるとともに、カード利用額の一部を提携手数料として受け取ることができ、財政基盤確立の一助となっております。また、同窓会の年会費をこのカードより自動振替(※1)とすることができますので、大変便利かと存じます。(※1 希望者のみ)

どうか、本カードの主旨をご理解の上、お申込みいただければ幸いです。



<同好クラブ VISA ゴールドカード>



<同好クラブ VISA カード>

京都大学経済学部同窓会
理事長 植田 和弘

■ ご入会方法

同窓会事務局までご連絡ください。入会申込みパンフレットを送付させていただきます。

※同窓会の連絡先は会報裏面に記載しております。



京都大学経済学部同窓会事務局

〒606-8501 京都市左京区吉田本町 経済学部内

【TEL・FAX】 075-753-3419

(平日10:00～16:00 土日祝/休)

【E-mailアドレス】 dosokai@econ.kyoto-u.ac.jp

【ホームページ】 <http://www.econ.kyoto-u.ac.jp/~dosokai/D-index.html>

京都大学経済学部同窓会

検索

でご覧いただけます。

〔印刷〕 株式会社 富山房インターナショナル

〒600-8216 京都市下京区西洞院通木津屋橋上ル 辰巳ビル 3F Tel 075-361-5766